

環境・都市基盤専門部会会議概要

1 開催状況

第1回専門部会 7月28日（金）15：00～17：00

第2回専門部会 8月2日（水）16：00～18：00

第3回専門部会 8月17日（木）15：00～17：00

2 審議の進め方

第1回専門部会及び第2回専門部会において、当専門部会が担当する分野の施策を個別に審議を行った。その上で、第3回専門部会において、議論を深め、当専門部会としての答申案を取りまとめた。

3 専門部会での委員発言要旨

41 省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進するまちをつくる

□指標「地球温暖化を防ぐための実践項目数」の単位がわかりづらいため、「個」から「項目」にした方が良い。

43 那覇らしい景観を実現し、次世代に受け継ぐまちをつくる

□施策概要において、「いかし」「いかす」と続くため、「固有の風土、歴史や文化を守り、それらをいかす」に修正した方が良い。

□取り組みの柱と方針に維持管理の必要ではないか。その視点があることで、次の世代へ引き継ぐ姿勢がはっきりと示される。

■維持管理はP D C Aの観点からも必要である。

■赤瓦などの工事への助成件数が310件に達した場合、対象地区の何%になるか⇒次回報告

□首里金城地区、龍潭地区、壺屋地区を景観形成地区に指定していることについて、現状と課題に記述してもらいたい。

□課題で「モノレールを視点場とする家並み等を整備する必要がある」とあり、景観形成地区の新規指定について取り組みの方針に記述してもらいたい。

44 自然や水辺環境をみんなで育むまちをつくる

□首里の樋川（ひーじゃー）や湧水が枯渇している現状がある。水辺の環境の再現・復活させ、首里の歴史・文化を継承していく必要がある。大地の保水力、地下水の涵養に取り組むことで、緑化にもつながる。浸透性の舗装の道路整備、屋敷から道路側溝に流すのではなく自然浸透を促す等の取り組みが必要ではないか。

■地下水の実態調査をした事例は、事務局が把握している範囲では事例はない。

- 河川の水質改善の観点から下水道の整備状況はどうなっているか。⇒下水道の人口普及率は98.1%、接続率（水洗化率）は95.5%
- 中核市移行後、合併処理浄化槽への改良指導を行っているが、浄化槽設置者の台帳の整理に鋭意取り組んでいる。
- 漂着ゴミの問題について記述した方が良いのではないか。
- 漂着ゴミの観点からということではないが、ラムサール条約に登録されている漫湖の自然環境の保全のため、漫湖チュラカーギ作戦を実施して、清掃活動に取り組み、啓発を行っている。
- 「外来種対策」をキーワードとして盛り込んでもらいたい。
- 市内でギンネムが繁茂している状況や、アメリカハマグルマが咲いている状況が確認されているため、外来植物の問題を現状と課題で記述してもらいたい。
- マングース、それと水中ではテラピアやバス、ミシシippアカミミガメ、ヒアリ等の外来動物に関しても現状と課題で記述してもらいたい。
- 外来種への対応について取り組むとした上で、取り組みの柱と方針を細分化し、取り組みの方針を明確にしてもらいたい。具体的には、次のような記述が考えられる。
 - 1 親水空間の保全・創出のための水質向上
 - （原案に下水道接続率の向上についても加える。）
 - （地域の河川愛護会のような民間の活動を支援するような政策）
 - （河川や海浜の清掃や漂着ゴミの対策）
 - 2 自然生態系の保全・再生・育成のための生物多様性への対応
 - （外来動物種の駆除や制御のための政策、たとえば外来動物種の情報ネットワーク等）
 - （外来植物種の除去の推進、市民の協力依頼）
 - （本来あるべき那覇市らしい自然生態系を目指すための注意喚起等）
 - 3 環境啓発事業（原案のまま）

45 魅力ある公園を整備し、みどりを守り・育て・活かすまちをつくる

- みどりを活かす視点から、「市民の主体的な～公園づくりを進めます。」については、取り組みの柱「公園・緑地の整備」とは別に記述して、既存公園の活用や維持管理の視点をより明確にしてもらいたい。
- 主要道路から少し離れた場所にある公園が十分に活用されていない可能性があるため、公園の表示等活性化させる取り組みも必要ではないか。

46 地域と共にみどり豊かな美しい道路空間のあるまちをつくる

- 道路ボランティアについて、企業への働き掛けや連携については、グリーンロードサポーターとして現在1社が活動中であり、2～3社が手を挙げている。
- 情報の共有など連携して効率よくできる仕組み、ボランティアへのインセンティブ、清掃道具、ゴミ袋の提供などの周知など取り組んでもらいたい。
- ICTを活用したボランティア団体を把握するための登録システム、活動状況を共有するためのSNSの利用、ボランティアを積極的に評価する仕組みなど「道路美

化活動団体増加に向けた取り組み」に具体的な方針を示してもらいたい。

47 市街地の整備を促進し快適で魅力あるまちをつくる

- 災害時における重要な避難経路の確保のため、工作物（ブロック塀）に対する取り組みの方針を記述してもらいたい。
- 景観行政とリンクさせてブロック塀から生垣へ誘導するなども有効ではないか。
- 京都府の事例で誘導経路を優先して取り組んでいる事例もある。
- 耐震基準を満たしている特定既存耐震不適格建築物等の割合の目標値 97%は、国のガイドラインに沿った目標値となっている。

48 誰もが移動しやすいまちをつくる

- モビリティマネジメント、フリンジパーキングについては、一般の方も理解できるよう注釈を付けてもらいたい。
- 「自転車道路」をキーワードとして盛り込んでどうか。具体的には、「徒歩や自転車で快適に移動できる『自転車道路等』のネットワークを構築するとともに」
- デマンドタクシー等の市内の公共交通の空白地帯に対する取り組み等は、モビリティマネジメントに包含されている。
- 誰もが移動しやすくなるよう道路標識などのサインについても位置づけてもらいたい。

49 住宅環境が整備され、快適に住むことができるまちをつくる

- 高齢者や障がい者の居住空間の確保のための取り組みを強化し、民間賃貸住宅の低層階のユニバーサルデザイン化の支援を検討してもらいたい。「民間賃貸住宅の情報提供を行い、特に民間賃貸住宅の低層階のユニバーサルデザイン化の支援を検討します。」
- 現在、沖縄県における空家空室率は全国に比べ低い状況にあるが、今後、人口減少に伴い空家空室率は上昇することが予想されるため、低炭素社会の実現に向けた社会資本ストックの活用は重要となるだろう。

50 人と動物が共生し、衛生的な生活環境が確保されたまちをつくる

- マンガースやカラスが増えている現状があるため、ハブ、ねずみに加えてマンガース、カラスなどの対策として「将来、生活環境に影響を与える可能性があるマンガースやカラスなどの害獣対策を検討」する取り組みの方針を入れてもらいたい。

51 安全・安心で快適な都市空間の確保されたまちをつくる

- 修繕計画に重点をおいているが、「日常的な修繕計画」を入れてもらいたい。
- 散策できる「ネットワーク」づくりに、「ネットワーク」が示している類例を用いて説明を加えてもらいたい
- 景観に配慮したサインについて、取り組みの方針に別建てで加えてもらいたい。
- サインについて景観に関する施策と横串を通すように同様の表現にすると良い。

- 災害時の避難施設の整備について、学校施設他の施設整備を関連施策として明示してもらいたい。
- 「人にやさしい、バリアフリーに配慮した」を「人にやさしい、ユニバーサルデザインに配慮した」に修正してもらいたい。
- サインの経年劣化の課題もあるため、関連する計画に「景観ガイドライン」を加えてサインの課題についても検討してもらいたい。

52 強靱な水道で、いつでもどこでも安全安心なまちをつくる

- 直結給水を拡大する取り組みについては評価できるが、衛生管理や台風時の飛散について広報活動に力を入れて、老朽化した貯水槽を直結給水の拡大に取り組んでももらいたい。

53 公共下水道を整備促進し、安全安心なまちをつくる

- 下水道の接続については、他人の土地を通すことや費用の工面が難しいことがあり、接続率 100%にするには厳しい状況である。
- 下水道には、汚水と雨水があり、雨水問題として浸水被害の軽減に取り組むこととしており、首里石嶺町 4 丁目地区等は浸水常襲地区として被害軽減対策を計画しているため例示している。

54 地域の特性を活かし魅力が高められたまちをつくる

- 「多様」が連続しているため表現を修正してもらいたい。
- 「市民、企業、大学等」に NPO を加えてもらいたい。
- 「安全安心」の表記を統一してもらいたい。

55 那覇港湾施設（那覇軍港）の跡地を活かしたまちをつくる

- 那覇港湾施設（那覇軍港）の跡地利用については、市民の機運が高まるような取り組みが必要ではないか。跡地利用に向けた広報活動の充実や市民意見の取り込みが望まれる。